Change!

写真と文／海田　悠

世界へ飛び出す機会与えたい

●South Pacific Free Bird社長　谷口　浩さん

フィジーの人たちの温かさと親しみやすさに触れ、「ここに低料金の英語学校を作りたい」と考えた。留学は高いと諦めている人たちに世界へ飛び出す機会を与えたい。3年ほど前に始めた私の夢が、事業を支えるスタッフみんなの夢になってきた。

たにぐち・ひろし　96年中国同済大学建築学部中退。03年旅行で訪れたフィジーに世界最安の語学学校を設立しようというビジネスのアイデアを確立し、04年、フィジー初の英語学校を設立。英語教育だけでなく、教育産業の低価格化をめざしている。

かいだ・ゆう　写真家。企業経営者やアーティスト、歌舞伎役者など人間を中心に撮影活動。主な著書・写真集に『経営者の肖像』（講談社）、『表現者の肖像』（アートデイズ）、『新・経営者の肖像』（中央公論新社）など。1947年生まれ。大阪府出身。

不変と革新

―その判断は正しいか

▷25◁

コンプライアンスの「落とし穴」

先日地方出張に出かけ、2004年に「温泉偽装問題」で世間を騒がせた有名温泉地を取材した。

あれから4年たつというのに、「事件」の傷跡は深く、あれ以降、マスメディアへの露出もほとんどない。売り上げは激減し、今や往時の勢いはない。

温泉偽装は、全国各地の温泉地で発覚して大問題になったが、一部の悪質なケースを除けば、当時の温泉法の枠内で実施されたものも多かった。そのため、旅館の経営陣としては「法令の範囲内でやったことなのに…」という割り切れない思いも残っているように感じられた。

実は、この点にこそ、昨今流行の「コンプライアンス」の落とし穴があるように思われる。

「コンプライアンス」は一般に「法令順守」と訳され、どの業界でも各企業が横並びで対応し、なかにはイメージアップに活用しているところもあるようだ。

しかし、日本の生活者が企業に求めているのはもはや法令順守だけではない。

現代ほど、環境変化の速く大きな時代はないといえるが、それゆえ、法令の方が社会経済の実体に追いついていない場合も多い。それをカバーし得るのは、各業界・各企業の倫理観だけであろう。生活者が求めているのは、まさに「企業倫理」であり、その要請に反したからこそ、温泉偽装はあれだけ大きな問題になったものと思われる。

1990年代以降、日本の生活者の間には、「本物」「製造物責任」「情報開示」へのニーズが急速な広がりをみせ、今や企業評価の最も基本的な価値観になっているとすらいえる。

したがって、これらに直接かかわる「裏切り」に対しては、いかに「法令順守」していようとも、容赦のない批判を覚悟せざるを得ず、企業としての存続すら危うくなる。

これまでこのコーナーで求心力のある経営理念の構築とその全社的共有の必要性を指摘してきたが、「企業倫理」は、まさに「経営理念」、ならびにその具現化としての、社員の「行動規範」のなかで明示されるべきものである。

そういう意味で、「コンプライアンス」や「企業の社会的責任（CSR）」に関しては、制度面を改訂するなど「システム／プロセス」の「部分改良」で事足れりとするのではなく、自社の「経営理念」の構築・実現という観点からこそ捉えるべきなのである。

04年の温泉偽装問題と現在も続く旅館の経営難は、身をもってそのことをわれわれに教えてくれているのではないだろうか？

これを「対岸の火事」ではなく、「他山の石」になし得た企業だけが、これからの時代、サバイヴしてゆけるように思えてならない。

嶋田淑之（しまだ・ひでゆき）東大文卒。大手電機メーカー、コンサルティング会社を経て、文筆家、自由が丘産能短大講師、戦略経営協会理事・事務局長。著書に『ヤマハ発動機の経営革新』（ダイヤモンド社、共著）、『Googleなぜグーグルは創業6年で世界企業になったのか』（毎日コミュニケーションズ、共著）など。趣味はクラシック音楽、美術、スキー。56年福岡県生まれ。

好みの日本酒の見つけ方①

ビジネスやプライベートで"知って得する"お酒の知識やマナーを今回から毎週、お伝えしていきます。

初回のテーマは「好みの日本酒に出合うための基礎知識」です。あまたある日本酒の中から「これ！」と

「甘辛

発泡性）は代表的な甘口銘柄、「刈穂　超辛口純米酒」（秋田清酒、＋12）は代表的な辛口銘

葉石かおり

お酒　知っ得

◇帰　かえる

◇書　農夫を交えて

◇印　「帰去来

（かえりなんいざ）。陶潜「帰去来の辞」

書・

快活な

団塊の世代、その先

"お疲れ様"などと労さ

る。皆様とてもお元気な

退き「身は軽く、新聞

て、意気は益々軒昂だ。

私の知る団塊諸氏は快

い。